

## 第三者評価 評価結果総括表

福祉・医療事業支援機構 有限責任事業組合

事業所名	あゆみ保育園	
報告書作成日	平成 27 年 2 月 4 日	(評価に要した期間 18 か月)
評価機関	福祉・医療事業支援機構 有限責任事業組合	

### 評価方法

自己評価方法  実施期間： 平成 25 年 9 月 1 日 ～平成 25 年 12 月 31 日	園長、職員全体で作成した。
評価調査員による評価方法  実施日：第 1 日目 平成 26 年 1 月 17 日 実施日：第 2 日目 平成 26 年 1 月 28 日	① 第 1 日目 ガイダンス、施設見学、保育観察、ヒアリング（園長、主任保育士） ② 第 2 日目 ガイダンス、保育観察、ヒアリング（園長、主任保育士）
利用者家族アンケート実施方法  実施期間： 平成 25 年 9 月 7 日 ～平成 25 年 9 月 30 日	① 送付は、全園児の保護者 71 世帯に対して、園を通して保護者へ手渡しで行った。 ② 回収は、返信用封筒で、評価機関宛に無記名で直接郵送していただいた。
利用者本人調査方法  実施日：平成 26 年 1 月 28 日	① 観察調査は、遊びの時間、昼食の時間、午睡の時間に観察した。 ② 0 歳児から 5 歳児まで観察調査を実施した。

## 評価結果についての講評

### 【施設の特徴】

あゆみ保育園は、社会福祉法人高松児童福祉会により、昭和53年4月から座間市内で認可保育所あゆみ保育園として開園された。生後2ヶ月の0歳児から5歳児までの定員60名を受け入れ、延長保育、産休明け保育（生後満8週以上）、在園児のための日曜保育、一時預かり保育を実施している。

開園時間は午前6時40分から午後7時40分までとなっており、保育時間の充実を図り、利用者の利便性に答えている。

小田急線相武台前駅から徒歩5分ほどの閑静な住宅街にある。建物は鉄筋コンクリート造の2階建てで、近隣には緑豊かで四季折々の自然と触れあうことができる広大な、かみが沢公園があり子ども達が元気よく走り回ることができる。

広域避難場所になっている座間中学校があり、災害時にはすぐに避難でき、子どもたちの安全の確保にもつながっている。

園での基本生活は、「生活クラス」と呼ぶ縦割り保育を行っており、兄弟関係づくりにより自発性と思いやりを育て、社会性を養うことを目的としている。

### 【特に優れていると思われる点】

#### ●保育時間の充実により、利用者の利便性が図られている。

保育時間は午前6時40分から午後7時40分までと充実されている。また、利用者の子育てに関する相談や一時預かり保育を積極的に行っているため、不特定多数の利用者の利便に資することができており、地域の中でなくてはならない存在となっている。

#### ●子どもの心身の発達のための給食が丁寧に提供されている。

園に栄養士が数名おり、給食に力を入れている。手作りのものが多く、特にヨーグルトに関しては、鉄分調整がされているヨーグルトを取り寄せたり、園内で手作りするなどしている。

お昼ごはんはボリューム満点で、おやつは野菜たっぷりのお好み焼きなど子供たちの好きなものを上手に取り入れ、さらに栄養価も十分に配慮されたものを提供している。

#### ●周辺の環境や外部の専門資源を活かし、日々の保育を多彩なものとして子どもの心身の豊かな育みを支援している

自然豊かな多目的公園に近接し、子どもたちは自園の庭と同様に行き来して季節の自然に親しんだり、存分に身体を動かしたりすることができる環境にある。また3歳児以上は外部講師による音楽教室・体操教室を通じてさまざまな楽器の演奏や歌に取り組んだり、基本運動や器械を使ったダイナミックな動きで運動能力や体力を養うとともに、運動会や地域の小ホールでのクリスマスコンサート・生活発表会など、それらの成果を保護者に披露し、充実感や達成感を味わえる機会も設けている。さらに牛乳パックやティッシュの空箱・トイレットペーパーの芯・乳飲料などの空きボトルといった身近な生活素材・廃材を活用した制作活動を各年齢で活発に行い、季節や行事などのテーマにちなみ、発達に応じて作品作りに取り組むことで作る喜びと豊かな感性の伸長につなげるなど、日々の保育を多彩に展開し、子どもが心身ともに健やかに育つことができるようにしている。

●子どもの一年の園生活を彩るさまざまな行事が、子どもたちの体験と心の成長を促している

年間を通してさまざまな行事を設け、子どもたちの豊かな体験と達成感・充実感や自立を促している。七夕や節分、ひな祭りなど季節の伝統行事に加え、4・5歳児は大自然の中で楽しく遊ぶサマースクールやスキーを楽しむ冬のさよなら遠足があり、仲間たちとさまざまな体験を重ね、自立心を培っている。また誕生会と合わせて定期的に行う「お誕生会バイキング」のほか、秋の芋掘り遠足で収穫したサツマイモを芋煮会で味わったり、2月のなかよしパーティーでは4歳児が5歳児の入学をお祝いし、このパーティーを受けた5歳児はカレーパーティーでお祝いのお礼にカレーを作り、後輩たちをもてなすなど、食育にもつながる会食機会も設けている。さらに運動会や生活発表会、地域の高校の吹奏楽部と合同で行うクリスマスコンサート、地域の老人会とのふれ合う「幼老交流会」といった日頃の活動の成果発表や世代間交流の機会もあるなど、さまざまな行事が子どもたちの一年を彩り、豊かな体験と心の成長を促している。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

●快適な施設環境の確保に更なる改善を期待する。

建物の改修工事や省エネなど日々取り組んでいる姿が見受けられるが、今後の老朽化に伴い更なる工夫を期待する。

●保育の計画・記録における書式や記入のあり方を見直すことで、発達を踏まえた保育実践のさらなる充実につなげることが期待される

2歳児以降の異年齢保育を生活の基本としており、3歳児以上ではクラス（年齢）別の月間指導計画（月案）に加え、異年齢保育用の月案も作成している。異年齢月案についてはクラス別の月案との様式の整合に一部見直しの余地が見られるほか、クラス別月案も年齢ごとに記載が異なる場合があるなど、各計画の関係性や位置づけについて、より合理性のある作成のあり方の検討が期待される。また週間指導計画（週案）は実践状況に応じて赤字で適宜修正し、実態を反映させているが、月案や年間指導計画にも同様の処理を行うことで、計画の記載をより実情を踏まえたものとし、職員間の共有や次期の計画への反映につなげる工夫も検討されたい。併せて、0～2歳児ではクラス別月案のほか個人別の計画を作成し、週案と日々の保育日誌を兼ねた書式に反映させて評価・反省も毎日行い、発達状況や特性に応じた援助に活かしているが、「記録」と「反省評価」の各欄の記載に重複も見られており、記入にあたっての視点や目的をより明確にし、記録・反省としての精度向上につなげることを期待したい。

## 評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

### 評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域社会の福祉事業を推進すること」を目的として掲げる法人の理念のもとで、保育の理念に子どもの人権や主体性の尊重、最善の幸福と福祉の増進及びそのための保護者や地域との連携、職員の研鑽を謳い、保育の基本方針にも人権・プライバシーの尊重や保護者の意向の傾聴などを掲げている。併せて基本方針には子どもの健康・安全の保障と健全な心身の発達、説明責任の遂行などを掲げている。これらは園内研修や書面の配付・掲示等によって職員に理解を促しているが、保護者に配付する各種資料やホームページ（以下「HP」）など、保護者・地域への周知についてもさらなる工夫が期待される。</li> <li>・保護者・入園希望者及び地域に対しては、HP及びパンフレットに保育目標として「思いやりのある元気な子ども」「すくすく育つ健康な子ども」など5つの子ども像を示すとともに、2歳児からの異年齢児保育、周辺の環境や体操教室・四季の行事などを活かした活発な身体活動と自然体験、発達に応じて取り組む制作活動などを通じた豊かな感性の伸長など、日々の保育活動に反映させている。</li> <li>・現在の保育課程は24年4月より運用し、関係書籍の書式を参考に上記の理念・方針・目標などの文言を反映させるとともに、策定当時の職員が参画して年齢別の保育の内容を検討するとともに、読み合わせなどによって共通理解につなげている。また保護者には入園時に配付と説明を行うとともに、毎年の入園進級式でも説明して周知を図っている。</li> <li>・保育課程のほか年間指導計画が策定され、月・週の計画に展開して日常の保育実践に反映させている。月の指導計画（以下「月案」）はクラス（年齢）別のほか3歳児以上の異年齢保育に関しても作成し、2歳児までは個人別の計画も作成して発達差や一人ひとりの特性に応じた援助につなげている。3歳児以上にも必要に応じ個別計画作成または関係職員間で必要な配慮を話し合うなどして個別支援を行うこととしている。</li> </ul>

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



・入園にあたり、保護者と個別に面談を行って保育開始に必要な諸情報を把握・記録している。面談の際には保護者が子どものそばについたり、近くで遊ばせたりして、必ず子どもが見える位置取りで行う。また保護者記入の児童票・生育記録・家庭調査票をもとにヒアリングを実施し、家庭環境や食事・睡眠・排せつなどの発達状況及び成育歴、保健に関する各種情報など入園時の状況を確認するとともに、面談時に聴き取った追加情報を各様式に追記する。

・通園開始当初には1週間を目処に保育時間を調整し、徐々に短時間から長時間保育に移行して子どものストレス軽減を図っており、実施の有無や期間については子どもの状況や保護者の勤務に依りて個別に設定する。また低年齢児には保育士のソフトを調整して緩やかな担当制のもとで支援助し、毎朝なるべく同じ保育士が受け入れるなど、子どもの安心と早期の安定に配慮している。連絡帳は幼児を含め全世帯と毎日やり取りを行い、園・家庭それぞれでの食事・排せつ・睡眠などの状況を保護者と共有するとともに、幼児については子どもが自ら家庭で話すことも大切にしている。また0歳児の連絡帳は複写式となっており、複写を園で毎日児童票に綴り、日々の記録としている。

・月案は月半ば頃に当月の反省と次月の検討を行い、月末にも反省を行って必要に応じ次月計画を修正する。週の指導計画（以下「週案」）はクラスにより各週末または月末に反省と次計画作成を行う。年間指導計画は毎月の目標と活動予定を記載する様式としており、評価は年度末に行う。

・3歳児以上は異年齢保育の月案も作成しており、0～2歳児はクラス計画のほか個人別の計画を作成、発達状況や特性に応じた援助につなげている。月・週案それぞれに担任が作成し、複数担任のクラス及び異年齢月案は話し合いのもとで作成している。また連絡帳や送迎時の会話から日常的に保護者の意向を把握し、体調を配慮して園外活動を控え、室内で過ごすなど、日常の保育に反映させている。行事の日程や内容にも保護者の声を活かしている。

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・園舎は南に面しており、1・2階とも各室は年間を通して陽光を積極的に採り入れることができる環境にある。また市のかきが沢公園に近接し、子どもたちが四季の移ろいを感じながら自然の風物に親しんだり、身体を存分に動かして遊ぶことができる。
- ・2階に沐浴・シャワー設備があり、遊んだ後や夏季などに、子どもたちが汗や汚れを洗い流すことができる。屋上と1階でも温水を利用できるようになっており、プール時や冬季の手洗いなどに活用されている。
- ・各室には温湿度計と空調設備があり、温度・湿度の設定基準が明示され、その範囲内で室温等を調整するとともに、玄関と各室に設置した空気清浄機のほか加湿器やオゾン発生装置なども活用し、季節や時間帯に応じて快適な環境を保てるようにしている。また園内の清掃を朝夕に行い、各保育室は食事後にも実施して清潔な状態の維持に努めている。
- ・2階の0～2歳児室・1階の3～5歳児室とも、簡易ドアや棚等を活用して各フロアを年齢別にエリアや部屋を区分し、低年齢児の小集団での活動、発達や年齢別のカリキュラムに即した保育提供を保障するとともに、異年齢での合同の活動にも対応できるようにしており、1・2階全室とも床暖房が設置されている。1階では3室のうち1室をロールカーテンで広間を仕切り、活動等によって年齢別・異年齢それぞれの実践に柔軟に対応できる形としている（注：訪問調査時点では改修中のため仮保育室の運用）。
- ・改修工事を行うなど子どもたちが快適に過ごせるように努力されているが、ハード面における今後の老朽化への対策及び地域との交流におけるユニバーサルデザインについて更なる工夫を期待したい。
- ・3歳児以上は日常的に異年齢が合同で過ごし、年上・年下の育ち合いを通じて成長への憧れや年上への敬愛の気持ち、年下への思いやりの情などが育まれるようになっている。2歳児以下でも0・1歳児は同じ室内で過ごし、互いの活動を見渡せる環境で関心を持ち合ったり、活動をともにして触れ合ったりできるほか、0・1歳児と2歳児以上と一緒に散歩に出かけたり、2歳児が3歳児以上と公園で遊ぶなど、異年齢の交流が活発に設けられている。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



・0～2歳児は個人別の月案を作成して発達差や一人ひとりの特性に応じた援助につなげるとともに、3歳児以上にも個別の援助を要する子どもには関係職員間で必要な支援を話し合うなどしており、今後は月案への個別配慮欄の設定など、それらを計画中に明記できる工夫についても検討されたい。なお訪問調査時点では該当児童はいないが、必要な場合には個人別の計画を作成して支援している。

・個別計画を明確に提示しての保護者との話し合いの機会は設けていないが、全年齢で連絡帳を交わしているため、その中で日々の状況報告だけでなく、発達の見通しや保育提供の方針などを必要に応じて記入している。また直接話す必要がある場合は送迎時などに時間を作り、個別に面談の機会を設けているとのことである。

保護者の就労等に配慮し、定期的な個人面談の機会は設けていないが、各保護者にばらつきなく計画内容を説明したり、一人ひとりの発達の状況や推移について保護者との共通理解形成を図ったりするための機会づくりについても、検討の余地はあるかと思われる。

・子どもの状況や発達経過、保護者の意向・要望などを記録する個人別の各書式を整備し、事務室に常置して職員が必要な時に閲覧できるようにしている。

一人ひとりの児童票に家庭状況と入園時の要望等、家庭調査票に保護者の就労状況や保健に関する各情報・睡眠や排せつ・食事などの成育状況が記入され、別途各種検診・検査の記録様式も整備している。また「保育記録」として入園後の一人ひとりの発達状況を月・年齢ごとの指標に基づいて定期的に記録している。

・各クラスで指導計画作成時や午睡時などに各児の状況が共有され、日々の会議や休憩の際に各年齢の担任が顔を合わせる機会があり、その中で各クラス及び子ども個々の状況や気になる点、必要な配慮などを検討・共有し、年度末の話し合いでも進級にあたっての引き継ぎ事項などが伝えられているとのことである。今後はそれらのうち必要な情報を会議録等に記録し、確実な情報共有やその後の振り返りにつなげる仕組みの確立を期待したい。なお、訪問調査時点では活用事例はないとのことだが、特に重要な事項を明文化する必要がある場合に備え「重要な発達過程の申し送り書」を整備している。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・障害児対応は、児童相談所と三者会議に主任が参加しながら保護者の情緒安定にも配慮している。会議録もある。

・特別な配慮を要する子どもには個別計画を作成し、特性に即した支援と継続的な見守りを行うほか、必要に応じて選任保育士を配置して支援することもある。

・適切な援助を確保するため、主任や各担任が外部の発達支援の研修や関係機関の会議に参加し、職員会議等で報告しているとのことである。研修の内容は研修記録などのファイルに保管されている。

また第三者委員を務める学識者の方にも相談や助言を受けることができ、来園した際に話をしてもらおうなどの協力も得ている。また、子どもだけではなく、保護者の情緒安定にも普段から気を配っており、送り迎えの時など少しでも気にかかる保護者へはさりげなく声をかけ子育ての相談はもちろんのこと、雑談を交えながら何でも相談できるような雰囲気づくりに努めている。指導が必要な保護者へ対しては、言葉ひとつで保護者が傷ついてしまうため、傷つかないような言葉を選んでじっくりと指導にあたっている。

・園舎は築35年を越え、バリアフリー等については難しい面があるものの、現在は在籍していないが、障がいのある子どもなどのために園内の段差に手作りのステップを置くなどの配慮をしたとのことである。

・虐待に関するマニュアルが策定され、その中に虐待の定義等が記載されている。同マニュアルは策定時に職員間で回覧したほかは、周知に向けた機会づくりは積極的には行っていないとのことであり、今後の取組が待たれる。過去には該当する事例を踏まえて職員間の認識や情報の共有を図り、継続的な支援を行った実績がある。

・虐待の疑いや事例が生じた場合の関係機関への通告・相談についてはマニュアルに明記されており、市の子育て支援課に通告したうえで児童相談所等と連携を図ることとなっている。要支援家庭への支援についても関係機関と連携した見守りに努めている。

・食物アレルギーのある子どもについては、入園前後に保護者から医療機関の指示書・診断書を提出してもらい、状況を把握し、除去・代替食を提供している。また新年度開始時にアレルギーについての質問票を配り、継続的な状況把握と状態の変化への対応に活かしている。

調乳室・幼児室など必要箇所にアレルギー児と対応の一覧を掲示し、確実な周知を図るとともに、掲示にあたっては保護者からは見えない場所に行き、プライバシーにも配慮している。またエピペン（アレルギーショック時の自己注射薬）の使用について園の管理栄養士（兼保育士）が研修を受講し、報告によって組織内での共有を図っている。提供の際にはトレーを通常食を別にし、名前と対応を書いたプレートを置いてミスのないようにするとともに、喫食時にも他児と席を別にし、保育士が個別について援助している。

・子どもたちは国籍などに関わりなく日頃から生活をともにし、関係を深めており、保護者には連絡帳の記入や送迎時の会話など、コミュニケーションに配慮しながら負担なく園を利用できるようにしている。また言葉でのコミュニケーションが困難な家庭には身振りや手振りも交えて伝えるほか、電子翻訳機を常備している。

日頃の保育活動の中で保育士が英語の歌や手遊びを披露したり、運動会で踊ったダンスのテーマソングにちなみ、外国籍の友達の国旗を示すなど、他国への関心や理解を促すほか、ハロウィンやクリスマスなど異文化に触れる行事も設けている。

## I-6 苦情解決体制



- ・苦情解決の受付は、主任が担当として決まっている。入園前に説明会を開催し、要望や苦情の受付に対して説明している。
- ・玄関と2階に第三者委員の電話番号などが記されたものを掲示し、意見箱も設置している。
- ・懇談会は定期的に実施している。
- ・子どもへは、担任を通して子どもの洞察をしながら主任が対応し、保護者へは、様子を見ながら園長若しくは主任から声をかけ、子どもや保護者への配慮を心がけるようにしている。
- ・障がい児対応は、児童相談所と3者会議に主任が参加しながら保護者の情緒安定にも配慮している。会議録もある。
- ・他機関の紹介が必要であれば第三者委員から紹介してもらっている。
- ・第三者委員が心理療法のエキスパートであり、講演会を年2回実施している。講演会のあと具体的に相談したい保護者は個人面談ができる形をとり保護者の悩みに対応している。面談のあとは、園長若しくは主任がどのような相談だったのか報告を受け、保護者への対応、子どもへの対応の助言をもらっている。講演会の日には給食の試食会を合わせて実施するなど保護者が参加しやすい工夫がなされている。
- ・職員の休憩時間はティータイムと称し、ティータイムをともにすることでリラックスした雰囲気の中、情報を共有するよう努めている。午睡の時に毎日実施し、伝え漏れがないよう努めている。
- ・記録がとてもきれいに整備されている。パソコンをうまく活用し、職員全体で共有できる仕組みができています。
- ・苦情受付対応のマニュアルがある。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容	
評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ-1 保育内容【遊び】  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階は3歳児以上のフロアとなっており、日々の保育は制作・音楽教室や4・5歳児の体操教室などの年齢別の活動と、3～5歳児混合の2グループからなる異年齢の活動からなり、それぞれ保育室を使い分けたり、広間をロールカーテンの開閉によって柔軟に区分して活用し、目的や活動内容に応じた保育環境を保障している。収納ボックス等に大小のブロックや鉄道玩具・ままごと玩具などを常設し、活動や子どもの欲求に応じて保育士が提供したり、子どもが自分で選んで取り出したりできるようにするほか、絵本は棚から自由に選び取れるよう設置している。</li> <li>・2階の0～2歳児室もワンフロアを棚や簡易ドアで仕切り、他クラスの様子や音声を常時見聞きできるレイアウトとし、フロアマットやカーペットを敷いて家庭的な雰囲気や遊び・睡眠など生活場面ごとの活動の区分に活かしている。またぬいぐるみやブロック、布製の人形・玩具などを棚に設置し、子どもが手に取ったり、保育士が提供したりして一人ひとりが思い思いに遊べる環境とするほか、床暖房によって冬季の快適な活動につながっている。</li> <li>・各室ともテーブル・椅子等は発達に即した形状・大きさに配慮するほか、日々のカリキュラムに適宜設ける自由遊びの時間や制作活動などを通じ、子どもが集中して活動に取り組んだり、遊び込んだりできるようにしている。また屋上と2階のテラスにはアスレチック・滑り台等の大型遊具、4・5歳児用のプールなどが常設されている。</li> <li>・各階とも天候や時間帯、子どもの活動予定に応じ、テーブルを移動してマットを敷くなどし、さまざまな玩具を置いて遊びのコーナーを設定しており、その中で子どもの意欲や欲求に応じて遊びを選び、取り組めるようにしている。運動会のダンスで踊りたいもの・曲、発表会・クリスマスでの合唱で歌う歌、生活発表会で4・5歳児が演じる劇でもせりふなどに子どもの発想を活かしている。</li> <li>・また概ね3歳児頃から椅子取り・影踏みや「かごめかごめ」などの伝統遊びなどを通じて小集団で簡単なルールのある遊びに取り組み、5歳児のドッジボールや「どろけい」遊びなど大集団での遊びに発展させている。</li> <li>・玄関にはメダカの泳ぐ水槽が設置され、年長児が餌やりをしており、過去にはザリガニ・カブトムシ・クワガタなどを飼育し、子どもたちが世話をしていたこともある。また年長児は各自でプランターでのチューリップ栽培を行って水遣りなどの世話をするほか、夏季にはミニトマトなどの栽培にも取り組み、収穫して給食で味わっている。</li> <li>・園外の畑ではサツマイモ栽培を行い、子どもたちが収穫して芋煮会で味わう機会も設けている。</li> <li>・天気のよい日には3歳児以上は毎日、2歳児が週2日程度、0・1歳児は季節により可能な日に散歩に出かけており、徒歩や散歩車などで周辺の各公園に足を延ばし、存分に駆け回ったり、固定遊具で遊んだりしている。行き逢う地域の人々とは挨拶や言葉を交わし、近隣のかかが沢公園で春には満開の桜を眺めたり、チューリップ畑や秋の彼岸花など、四季の花を愛でることができるほか、秋には3歳児以上で七五三を兼ねて座間公園に出向き、松ぼっくり拾いなどをして制作に活かすなどしている。また4・5歳児は夏のサマースクールで山梨・白州で川や滝で水遊びをしたり、冬にはスキーに出かけるなどしている。</li> <li>・散歩などの屋外活動の際の紫外線対策として、日焼け止めは家庭で塗ってきてもらうほか、猛暑の時期やサマースクールの際には園でも塗布している。また外出時には首まで布で覆える帽子をかぶるなどしており、虫除けは天然素材のものを用意している。また感染症や花粉症の流行時季には子どもにマスクを着用させたり、花粉症の症状の重い子どもは散歩を控え、室内で保育士と過ごすようにするなどの配慮をしている。</li> </ul>

- ・外部講師の体操教室を4・5歳児対象（年度後半から3歳児も加わる）を行っており、前転・倒立などの基本的な動きから鉄棒・跳び箱・平均台などで身体を動かし、運動会では各年齢で日頃の活動の成果を披露している。低年齢児も2歳児室のアスレチック遊具などで発達に応じて楽しんでいる。また子どもたちがダンスに取り組む際には携帯用のタッチパッドモニタを活用し、映像で振付を見ることができるようになっている。
- ・ 戸外遊びや体育活動の際、体調のすぐれない子どもは室内で過ごしたり、肘内症を既往に持つ子どもには鉄棒などぶら下がる運動・遊びは控えさせるなどの配慮をしている。
- ・ ティッシュの空箱やトイレットペーパーの芯など身近な廃材・生活素材を用いた制作活動を各年齢で積極的に行っており、季節や行事などテーマに応じ、年齢別または異年齢同士で取り組み、作品は園内各所に展示して保護者にも見てもらえるようにしている。
- ・ また定期的に来園する外部講師による音楽教室では3歳以上児の合唱のほか、鍵盤ハーモニカ、大小の太鼓・鈴・タンバリン・木琴・鉄琴などの合奏や年齢別の活動に取り組んで音楽に親しみ、地域の小ホールでのクリスマスコンサートと生活発表会で成果発表をし、保護者に晴れの姿を見てもらう機会を設けている。クリスマスコンサートは地域の高校の吹奏楽部との合同で行い、それぞれの演奏・合唱披露のほか、一緒に演奏するプログラムも設けられ、日頃とは違う舞台上で練習の成果を発揮し、達成感や充実感につなげている。
- ・ けんかなど子ども同士のトラブルには危険のない限りできるだけ経過を見守り、なるべく子ども同士で解決や相互理解に導けるようにしている。また1・2歳児頃のかみつき傾向のある子どもには担任が特性を把握し、そばにつくなどして予防に努めている。

II - 1 保育内容【生活】



- ・ 食事提供は年齢ごとに各室で行い、発達段階に応じたテーブル・椅子を使用、子どもたちが友達や保育士と語りながら楽しく味わえるようにしている。喫食時にはテーブルクロスを敷いたり、花を飾るなどして食事の雰囲気づくりや華やぎにも配慮し、乳児はテーブル付の椅子・肘掛け付の椅子などを使用、保育士が一人ひとりに相対してにこやかに語りかけながら援助し、個々のペースでゆったりとくつろいで食べられるようにしている。
- ・ 苦手な食材・メニューは無理強いせず、少しでも口にできればほめたり、好きなメニューを食べるために苦手なものにも挑戦してみようとする意欲を鼓舞したりなど、個々のペースや嗜好を尊重するとともに、食の細かい子どもなどには必要な栄養摂取に配慮しながら盛り付けの量を調整し、完食した満足感を味わえるようにするなどの配慮をしている。乳児の授乳も一人ひとりの生活リズムに合わせて行っている。
- ・ 当番活動で4・5歳児が食前食後の掃除・片付けなどを行うほか、5歳児は避難訓練の一環でおにぎり作りをし、白玉でお月見団子を丸めて作り、4歳児がそれを平らに加工したり、芋掘りで収穫したサツマイモを4・5歳児がピーラーで皮をむいたり、一緒に芋煮に使う大根・人参とともに子ども用の包丁で切るなどの体験をしている。また七五三の時期に職員が生地を3歳児以上が型抜きしてクッキーを作ったり、5歳児の入学をお祝いするなかよしパーティーを4歳児が準備して行い、このパーティーのお礼に5歳児が後輩たちへ感謝を込めてカレーパーティーを実施、野菜切りをし、レストラン風に装飾された室内で自分たちでよそって配膳をし、2歳児以上をもてなす機会なども設け、子どもが気分を変えて楽しく味わったり、食材に触れたりできるようにしている。
- ・ 献立は旬の食材を用いて季節感に配慮したメニューを提供するとともに、定期的に誕生会と合わせて行う「お誕生会バイキング」、地域の老人会との交流を行い、子どもたちがバイキングを行う「幼老交流会」などの楽しい会食機会を折々に設けるほか、正月の七草粥やハロウィンのカボチャ、端午の節句にはおやつに柏餅と、季節や古来の伝統、園の行事にちなんだ楽しい特別メニューも毎月提供している。年長児には3月に子どもたちから募った人気メニューを提供している。

・食材はなるべく国産のものを使用し、食器もメラミン樹脂製品を避け強化磁器を中心にするなど、安全性に配慮している。食器・食具は発達に応じた形状・大きさのものを採用し、スプーン等の食具の使用も個々の発達差や家庭の方針を踏まえて手づかみ食べから徐々に移行し、箸の使用は家庭と連携し、あらかじめ家庭の食事で練習するなどしてもらいながら、満3歳の誕生日からを目安とし、各々持参して使うようにしている。

・毎月の給食会議で各クラスの喫食・残菜状況の確認や献立メニューの検討などを行っている。

日々の提供の際には保育と調理を兼務する管理栄養士が各室を巡回して喫食状況を確認したり、子どもと会話したりして食べ具合や子どもの評価を把握している。また主任保育士も栄養士資格を持ち、資格者としての勤務経験もあるため、日頃から子どもたちと給食をともにし、喫食状況などを把握したうえで、より専門的な視点で厨房に意見を伝えることができ、現場と厨房との緊密な連携につながっている。

毎食の残菜状況は給食日誌に記録され、給食会議で報告のうえ、次月以降の献立・調理等の参考とされている。

・保護者に配付する毎月の献立表にはその月のメニューにちなんだトピックを掲載している。また年2回の給食試食会では、親子でライブコンサートを楽しんだ後に給食を味わい、学識者を招いての育児講座当日に提供したメニューや子どもに人気のメニューのレシピに食事のマナーなど食育や啓発につながる話題も掲載し、保護者に配付している。さらに栄養士が0歳児保護者に懇談会や毎日の交流の中で離乳食に関するアドバイスを行うなどしている。

毎日の提供食は玄関に写真を展示して保護者に伝えるほか、携帯やPCから保護者がログインできるウェブシステムでも参照できるようになっている。

・毎日の午睡は各クラスともカーテンを閉め、子どもの顔が見える程度の明るさにし、年齢によりオルゴールのCDを流すなどして、スムーズな入眠に導いている。乳児は個々のリズムに応じ、午前中の睡眠にも対応するなど個別に支援し、生活リズム確立後も食事後に時間を設けて行うほか、体調や活動後の疲労の度合により個々に睡眠や休息を取らせる対応も行っている。眠れない子どもや早く起きた子どもに対しては、0~2歳児は寝ている子どもたちとはエリアを別にして絵本を読んだり、保育士とスキンシップをするなどし、幼児は静かに身体を休めたり、絵本など静かな活動をして過ごすようにしている。

SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防に向け、睡眠中はうつぶせ寝をさせず、布団やタオルなどが口元にかからないよう注意するとともに、0歳児は15分、1歳児は30分間隔で呼吸の確認を行い、所定のチェック様式に記録している。また年長児は12月頃から徐々に午睡を減らし、PCで年賀状制作や描画を行ったり、数・文字などのワークブックで学ぶなど就学に向けた活動に取り組むようにしている。

・排泄習慣の確立は個々の発達差に応じ、概ね2歳児前半から3歳頃の自立を目標に、個別指導計画に継続的に配慮を記載し、支援している。早い子では0歳児後半頃からトイレに興味を持たせたり、保育士が排泄リズムを把握して誘いかけるなどして習慣づけ、トイレに座ることから始め、成功体験を積み重ねながら徐々に自立に導けるようにしている。失敗した場合やおもらしなどの際には他児に見えない場所で後始末をしたり、着替えるなど、子どもの羞恥心に配慮した支援に努めている。また日々の状況は連絡帳や送迎時の会話などで保護者に伝え、家庭とも連携を図っている。

<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既往症について、保護者に生育記録を記入及び提出をしてもらい、子どもの生育記録について職員間で共有・周知させている。</li> <li>・健診結果について、精密検査などの再検査が必要な場合においては、嘱託医やかかりつけ医との連携を図り、嘱託医の健診結果の情報を保護者の希望する範囲でかかりつけ医に伝えている。</li> <li>・感染症に関する情報はインターネットや新聞などから情報を得て、職員間で情報を共有している。登園停止基準、保育園感染症対策マニュアルがある。</li> </ul>
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理マニュアルは、日々の保育の中で改善を要するものは、意見を出してもらい、改善を常にし、向上させている。</li> <li>・衛生管理マニュアルは、全職員が周知できるよう、採用時には読み合わせをし、その後は園内研修の中で実施している。</li> <li>・清掃はマニュアルにしたがって手順良く実施され、チェック表が確認しやすい位置に貼られている。</li> </ul>
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の安全対策は転倒防止のため、棚を固定し、床面に転倒防止材をはさんでいる。小さな棚は隣り合わせにある大きな棚とマジックテープで固定している。</li> <li>・安全管理マニュアルは、事故や災害に適切に対応し、職員がいつでもよむことができるように保管されている。</li> <li>・災害時の緊急連絡体制は、スマホや携帯を利用し、メール連絡網を構築している。</li> <li>・メール連絡網を含む通報訓練を年１回実施している。避難訓練時の避難場所としており、広域避難場所へスムーズに避難できるように、散歩をとおして毎日実施している。避難場所等への誘導は、日々の活動からできている。心肺蘇生法、AED使用、人工呼吸などの訓練を計画的に実施。</li> <li>・事故やケガの発生時の連絡体制は、災害時と同様にスマホや携帯を利用したメール連絡網を構築している。また、緊急通報システムも利用できるようになっている。</li> <li>・子どものケガはどんなに軽くても、すべて、保護者に報告し、連絡帳へ記録している。通院を要する場合は、連絡帳だけではなく別に詳細を記録し、保育に影響がないようにしている。</li> <li>・再発防止策は全職員参加し、会議で決定している。棚やロッカーの角で頭をぶつけた子どもがいたため、その後は角の部分はクッション材で保護し再発防止している。</li> <li>・外部からの侵入に対する対応策として、園が保護者にＩＣカードを提供し、ＩＣカードをかざすことでオートロックが解除され園に入れる仕組みとなっており、不審者の侵入防止が講じられている。さらに、ＩＣカードをかざすことで子どもたちの出席のカウントも行い、データで管理できる仕組みとなっている。</li> </ul>

### Ⅱ-3 人権の尊重



- 年度末の園内研修により言葉遣いの確認を行ったり、心理療法士による園内研修を行い、子ども的人格尊重、性差への配慮を図っている。
- おもらし等をした場合、プライバシーが守られる場所で着替えをするなど、子どものプライバシーの確保が図られている。
- 個人情報の取り扱いマニュアルがあり、園内研修により全職員に周知されている。個人情報に関する記録は、パスワードで保護された園のサーバー内のハードディスクに保管されており、外部からの侵入に対して保護されている。

### Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- 入園前に説明会を実施するとともに、基本方針を記載したパンフレットを配布している。進級式でも説明会を実施している。
- 園のしおりには、細かく基本方針を記載するとともに適宜見直しを行い、保護者に分かりやすく理解していただけるよう努めている。年間行事には担当職員名までを記したものを配布している。
- 連絡帳でも園の方針が理解されるよう工夫している。園だよりでは毎回園長のコーナーで方針について理解を求めるよう努めている。K&Kコンサート、サマースクールなど親子で参加しやすい行事を多くし、方針が理解されるように努めている。
- 送迎時に子どもの様子を伝えるよう連絡帳と合わせ保護者へ伝えるようにしている。
- 毎日の給食の写真を撮り、玄関にデジタルフォトフレームを置き、保護者へ伝わるようにしている。
- 情報交換は連絡帳、メールで実施している。クラス連絡帳も活用し毎日記入している。携帯メール網に登録してもらっており、迎えの時間などもメールを活用している。
- 個別面談は、定期的に保護者の希望する時間に合わせて実施している。第三者委員でもある心理療法士の講演会のあとも希望する保護者がいれば面談を実施している。親子参加型の行事などを多くし、いつでも希望すれば面談できる体制になっている。
- 保護者懇談会を定期的に実施し、きちんと伝わるように各クラスに分かれ、クラス担任が様子を伝えている。必ず質疑応答の時間を設け、どんなに些細なことでも対応するよう努めている。



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時預かり保育の体験保育や園見学、園解放にいられた地域の方々から、直接話を聞く事により、地域での子育て支援ニーズを把握している。</li> <li>・曜日を決め、園舎を開放し、その際に地域の親子の子育て相談を行っている。</li> <li>・児童相談所、市役所子育て支援課保育課と対象者の様子の情報交換及びそれに対する対策の検討会を行っている。</li> <li>・年度末に実施する園内研修において、地域の子育て支援ニーズについて、話し合いや情報の周知を行っている。</li> <li>・一時預かり、あゆみっ子デー(交流保育)、K&amp;Kコンサート、マジックショー、運動会、クリスマスコンサートなどを行い、地域での子育てを支援するためのサービスをしている。</li> <li>・年に2回、専門の先生を招いて地域住民に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催している。</li> </ul>
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への情報提供については掲示板を利用したり、地域の商店などに張り紙を掲示していただいている。</li> <li>・育児相談については、週に2回(火、水)のあゆみっ子デーで相談を受けている。電話相談については、常時実施している。</li> <li>・相談内容に応じて相談先をリスト化し、相談内容がリスト区分に適合しない場合や区分が困難な特殊な相談については、臨床心理士に相談をして、必要な関係機関などを紹介してもらう。</li> <li>・関係機関との連携の担当者は、決まっている。</li> <li>・相談に応じて、市役所子育て支援課では、児童相談所に連絡するようにしている。</li> </ul>

評価領域Ⅳ 開かれた運営	
評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の行事には、掲示板に案内を張ったり、園周辺にポスターを貼って知らせ、地域住民を招待している。</li> <li>・日頃から地域の老人会を招いてお誕生会をしたり、運動会、発表会、卒園式に招待し地域との関わりを大切にしている。</li> <li>・近くにある公園へは、地域のお年寄りと一緒に遊びに行くことが日常的にあり、毎日の活動の中で自然に地域とふれあえるように努めている。</li> <li>・職業体験やふれあい体験、高校の吹奏楽部との交流コンサートなどを行い、学校教育との連携を積極的に図っている。</li> <li>・地域を招待しての園行事の実施は多くあり、専門家を招いて講演会をしたり、お年寄りによるマジックショー、K&amp;Kコンサートそしてあゆみっ子デー（園開放）を行ったり、子供会の餅つき大会への蒸籠の貸し出しを行っている。お年寄りによるマジックショーは日頃の練習の成果を発表する場にもなっているため、お年寄りも子供も楽しみにしている園行事の一つである。</li> <li>・近隣との友好的な関係を築くために、地域のゴミ収集所の清掃、園周辺道路の落ち葉やゴミ集めを行ったり、近隣住民が休日の土曜日は、朝10時までは室内で静かに過ごし近隣へ騒がしくならないような保育を心がけている。</li> <li>・市の公園、図書館、市民会館などの地域の文化・レクリエーション施設等を利用している。</li> <li>・毎日お散歩を行うことにより、地域の方とあいさつをしたり、すすんで会話することにより地域の人達と積極的に交流を図っている。</li> <li>・他の保育園との交流は小ホールにて劇や歌を披露したり、小中学校の職業体験を行ったり、高校生との合同コンサートを開催したりなど、積極的な交流をしている。</li> <li>・市内の障害児施設のコンサートに参加したり、市のイベントなどに参加し、地域の行事や活動に参加している。公園に一番最初のチューリップ畑の植樹活動を行った経験がある。</li> </ul>
Ⅳ-2 サービス内容等に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園のホームページでは、サマースクールやスキー遠足など園行事や保育の情報をふんだんに提供をしている。また、一時預かり保育については、時間や料金などの詳細を掲載して利用しやすいようにしている。</li> <li>・保育所の基本方針やサービスについての問い合わせに対しては、常に対応出来るようになっているが、保護者・地域への周知についてもさらなる工夫が期待される。一時預かり保育の体験保育については、専用メールフォームにより問い合わせが簡単に出来る体制も整っている。</li> <li>・利用希望者には事前に見学ができることをホームページやパンフレットで案内しており、日常の保育に支障をきたさない範囲で、見学希望者の曜日や時間の都合に配慮している。</li> </ul>

#### IV-3 実習・ボランティアの受け入れ



- ・ボランティアの受け入れ依頼が多い。
- ・ボランティアの受け入れについては、職員には事前に知らせ、保護者には受け入れ期間を園だよりで知らせている。
- ・ボランティアの受け入れと育成担当者は決められており、記録も整備されている。ボランティアの感想や意見は、次回の受け入れに反映させている。
- ・サマースクールへ参加するボランティアとして卒園生もいる。
- ・実習生の受け入れについても、職員には事前に知らせ、保護者には受け入れ期間を園だよりで知らせている。
- ・受け入れ時の記録は、各学校から送付される実習生の調査書に基づいて整備している。
- ・実習生の実習期間中に、通常保育とは異なる行事があれば、できる限り行事に参加できるように、実習クラスを配慮している。
- ・担任実習をするクラスの担任、主任保育士と実習内容について打ち合わせをしている。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園に必要な人材補充は随時行っている。職員の研修参加を積極的に行うため、その他に補助として数名雇っている。園長のおつきあいで、ある大学と交流が深く、就職希望者が多い。</li> <li>・年度末に職員全員で園内研修を実施、理念や方針、マニュアルすべてを配布し、人材を育成している。</li> <li>・研修の内容に応じて、参加させる職員を選び研修会に参加してもらっている。非常勤職員についても常勤職員同様にしている。</li> <li>・園全体でより良い保育に取り組めるよう自己評価を毎年実施している。個人個人で評価しやすいように、園長自らが指導し職員の育成に努めている。グループ評価も実施している。</li> <li>・常勤、非常勤とも同様に定期的に研修会に参加させている。また、保育に影響がでないよう勤務を調整し工夫している。</li> <li>・日本保育協会、私保連などの大会や研修会、全保協や県社協による研修会などの外部研修会へも積極的に参加させている。</li> <li>・職員の夏休みをかねて研究課題を与え、レポートとし、全職員にフィードバックすることで研究の成果を共有している。</li> <li>・実際に熊本県で開催された研修会で紹介された鉄ヨーグルトについて、鉄分摂取にとっても良いということで、メーカーと交渉し特別に園まで配達をしてもらうことになったなど、園や職場で活かせるように工夫している。</li> </ul>
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価を毎年実施することで、職員個人も園全体も振り返りができるようにしている。</li> <li>・研修・研究を通して職員へのフィードバックし、サービス向上に努めている。</li> <li>・心理療法士による定期的な研修会を実施している。</li> </ul>
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数を多く積んだ職員はリーダー職としての役割を果たせることができるように工夫している。</li> <li>・職員の業務は職務分担表及び行事担当表などに明文化されており、マニュアル化されている。</li> <li>・職員からの業務改善については、日々の休憩時間（ティータイム）を通じて提案を募っている。職員誰でも改善案が出せるようにノートを置くなど工夫している。</li> <li>・園長による職員面談を実施し、職員の状況を把握し、何でも言える雰囲気作りに努めている。</li> </ul>

評価領域VI 経営管理	
評価分類	評価の理由(コメント)
VI-1 経営における社会的責任 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修の研修資料として、不正・不適切な行為を行わないよう守るべき規範等があり、研修を通じて職員に周知されている。</li> <li>・市のホームページ、園のホームページで積極的に情報を公開している。</li> <li>・園内研修で「言葉かけ」の読み合わせをし、普段から言葉が乱暴にならないように職員同士で声かけをしている。</li> <li>・他施設での不適切な事案は、職員会議においてその問題点を職員に対して説明し、同じような過ちが起きない様に啓発している。</li> <li>・保育室、事務室、調理室にリサイクルボックスを置き、リサイクルのための取り組みを行っている。また、子ども会を通じてダンボールを渡し、子ども会とも積極的に交流している。</li> <li>・省エネについては、照明をLEDに替えている。さらに、センサーライトによる自動消灯を実施し、省エネを図っている。</li> <li>・園内で農作業ができるように工夫し、子どもたちが収穫している。育てて食べる一連の流れを体験してもらっている。</li> <li>・環境への取り組みは明文化されており、職員研修で周知されている。また、省エネにより、経費削減につなげている。</li> </ul>
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員採用時に理念、基本方針、マニュアルを配布している。園内にも掲示している。読み合わせをし、職員が理解できるよう徹底している。</li> <li>・理念や方針の理解については、研修会や園長との面談などを通じて度々実施している。</li> <li>・新人職員には、専用のノートを渡して一日の流れを記録させ、理念や方針について正しく理解できているか確認している。理解度に合わせ、長い職員では1年間記録を続けている。</li> <li>・保護者とは講演会、懇談会、行事などの時に意見交換できるように工夫している。</li> <li>・大規模な工事などは、保護者の了解が得られるように何度も説明会を実施している。保育に影響がでないように配慮しながら、職員に対しても何度も会議の場をもち意見交換を図っている。</li> <li>・次期リーダー候補の職員については、リーダー研修へ参加してもらっている。園長が見きわめ自主的にリーダーとして育つような体制を整えている。</li> <li>・主任が個々の職員を把握しており、職員の業務状況は日々保育室に掲示している。</li> <li>・主任は指導マニュアルにもとづき、職員に能力や経験に合わせて指導を行っている。</li> <li>・個々の職員への配慮については、園長が徹底して取り組んでいる。毎日の顔色から、声掛けをしたり、子どものいる職員には子どもの相談を受けている。職員の健康づくりのために法人でスポーツジムと契約をしている。</li> </ul>

VI-3 効率的な運営



・事業運営に影響のあるものについては、副園長が進んで情報を取るようになっている。インターネットや保育関係の人的ネットワークを利用して、地方の保育園の見学なども度々実施し、良いものは積極的に取り入れている。新聞の記事をコピーして職員へ配布したり、必要に応じて保護者へも配布したりしている。

・法改正など重要な情報は職員会議で周知を図り必要に応じて議論している。また、多くの情報に振り回されることのないように正しい情報や意見を取り入れるよう努めている。

・中長期計画を作成しており、理事会でも中長期計画について話し合われている。

・新たなサービスプロセスなど積極的に検討し、取り入れている。

・後継者は、副園長、幹部職員も決まっているので計画的に育成を行っている。

・外部機関の研修会に参加したり、全国の保育関係者から知識や情報を得ている。

# 利用者家族アンケート

## 【 調査結果 】

実施期間:平成25年9月7日～平成25年9月30日

送付部数:71部

回収部数:48部

回収率 :67%

保育園の総合満足度は「満足」、「どちらかといえば満足」と回答した割合は92%であり、保護者から高い満足度を得ていることが伺える。

特には、「入園前の情報提供について」が90%、「園の目標や方針について」が94%、「入園時の面接での聞く対応について」が94%、「園での1日の過ごし方の説明について」が91%、「給食の献立内容について」が90%、「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」が92%、「基本的な生活習慣の自立に向けての組みについて」が96%、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについて」が96%、「お子さんの体調への気配りについて」が98%、「保育中にあったケガに関する保護者への説明や対応について」が94%、「残業などで迎えが遅くなる場合の対応について」が92%、「あなたのお子さんが大切にされているかについて」が96%、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについて」が94%、「話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについて」が94%の割合で「満足」、「どちらかといえば満足」と回答している。

入園した時の状況、生活及び職員の対応について、特に高い評価を得ている。

一方、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについて」が64%、「施設設備について」が63%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」が50%、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」が69%の割合で「満足」、「どちらかといえば満足」と回答している。

自由意見の中に「建物の老朽化」についての意見が見られたが、その後改修工事を行っており、施設設備に関する改善が図られている。その他の内容についても今後の改善を期待したい。

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	19%	69%	10%	2%	0%	0%



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちららともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	52%	33%	2%	0%	0%	13%

## ■施設のサービス内容について

### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	50%	38%	2%	2%	8%	0%
	その他 見学していないなど					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46%	44%	6%	2%	2%	0%
	その他 覚えていないなど					
園の目標や方針についての説明には	48%	46%	2%	0%	2%	2%
	その他					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	67%	27%	2%	0%	4%	0%
	その他					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	58%	33%	4%	2%	2%	0%
	その他					
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	48%	40%	2%	4%	4%	2%
	その他 高いと思う時があるなど					

### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	42%	46%	6%	2%	2%	2%
	その他					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	29%	35%	17%	0%	13%	6%
	その他 要望を話す機会がないなど					

### 問4 日常の保育内容について

遊びについて	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	40%	33%	13%	2%	6%	6%
	その他 アクティビティを増やして欲しいなど					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	40%	33%	10%	2%	10%	4%
	その他 園庭があるととても良いと思うなど					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	54%	35%	4%	0%	2%	4%
	その他					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	48%	33%	4%	0%	10%	4%
	その他 分からないなど					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	54%	35%	2%	0%	4%	4%
	その他					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	44%	44%	2%	0%	6%	4%
	その他 分からないなど					

生活について	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	67%	23%	8%	2%	0%	0%
	その他					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	69%	23%	4%	0%	4%	0%
	その他					
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	63%	33%	2%	0%	2%	0%
	その他					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	63%	33%	0%	0%	4%	0%
	その他 詳しくは知りませんなど					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	52%	27%	8%	2%	10%	0%
	その他 その年齢に達していないなど					
お子さんの体調への気配りについては	54%	44%	2%	0%	0%	0%
	その他					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	48%	46%	4%	2%	0%	0%
	その他					

#### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	23%	40%	17%	15%	6%	0%
	その他 建物の老朽化が目立つなど					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	33%	50%	13%	4%	0%	0%
	その他					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	27%	23%	33%	10%	6%	0%
	その他 対策は良く分かりませんなど					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	35%	38%	21%	4%	2%	0%
	その他					

#### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	31%	38%	15%	2%	10%	4%
	その他 個別面談がないのであったほうが良いなど					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	42%	44%	10%	0%	0%	4%
	その他					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	38%	38%	10%	2%	8%	4%
	その他 クリスマスコンサートを早い時期にして欲しいなど					

送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	48%	29%	15%	2%	2%	4%
	その他 「変わりないです。」で終わりの時も多いなど					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	52%	31%	8%	0%	4%	4%
	その他 よく分からないなど					
保護者からの相談事への対応には	46%	42%	8%	0%	0%	4%
	その他					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	73%	19%	2%	2%	0%	4%
	その他					

### 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	63%	33%	0%	0%	0%	4%
	その他					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	71%	23%	2%	0%	0%	4%
	その他					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	42%	35%	0%	0%	19%	4%
	その他 よく分からないなど					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	54%	40%	2%	0%	0%	4%
	その他					
意見や要望への対応については	44%	42%	8%	2%	0%	4%
	その他 対応が遅いことがあるなど					

### 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	46%	46%	6%	0%	2%

# 利用者本人調査

## 【 調査結果 】

### ・0、1、2歳児

保育園では2歳児以下でも0・1歳児は同じ室内で過ごし、棚や簡易ドアでフロアを仕切っている。その棚の中には、おもちゃや絵本が置いてあり、子どもたちが手に取りやすい位置に置かれている。フロアは仕切られているが、他クラスの様子や子どもたちの声を常時見聞きできる環境になっている。活動を見渡せる環境で、お互いに関心を持ち合ったり、活動をともにして触れ合ったりしている。

訪問調査日は、良く晴れた日で、2歳児が3歳児以上と近くのかにが沢公園に元気良く「行ってきま〜す。」と言いながらえり首に日よけが付いた帽子を被り、二人で手をつないでゆっくりと散歩に出掛けて行った。

午後の時間の遊びは、ぬいぐるみやブロック、人形などのおもちゃが棚に置いてあるため、子どもたちが自ら手に取ったり、保育士がおもちゃを提供したりして一人ひとりが思い思いに遊んでいる。

給食は、子どもたちの発達段階に応じたテーブル・椅子を使用しており、子どもたちは楽しく味わっていた。

### ・3、4、5歳児

保育園では3歳児以上は日常的に3歳児、4歳児そして5歳児が合同で過ごしている。子どもたちは、自分よりも年下の子どもたちへは思いやりの気持ちを、自分よりも年上の子どもたちにはあこがれの気持ちを持ちながら活動している。そのため、遊びも年齢問わず交流があり、ブロックやままごとなどのおもちゃを収納ボックスから子どもたち自ら選んで取り出して遊んでいる。また、絵本も棚から自由に選んで取り出して読んでいる。

給食の時間では、「おいしかったですか。」と聞くと「おいしかったです。」と元気よく応えていた。おかわりも自由にでき、給食は子どもたちの楽しみな時間で、笑顔で食事をしていた。

4・5歳児の給食当番の子どもたちは、食べる前と食べた後の掃除や片付けを楽しそうな表情をしながら行っていた。

保育士が、子どもたち一人ひとりに対してにこやかに語りかけながら保育を行っており、コミュニケーションが図られたあたたかい雰囲気であった。

## 事業者からのコメント

設立37年目に耐震診断と園舎改修工事を行いましたので、その機会に第三者評価を受けました。園の運営には、職員研修会、保育会議を計画実施し、保育に心くばりをしているつもりでございました。しかし、第三者評価を受けた事により、改善すべき点を知る事が出来ました。今回の評価内容の改善については、職員と話し合いを進めて、より良い保育を実施していきたいと思っております。

これからも「思いやりのある元気なこども」を目標として、縦割り保育で思いやりを育て、体操教室で身体を鍛え、音楽教室で情操を高め、夏は山梨県や千葉県で4歳児・5歳児と卒園児の小学生と一緒にサマースクールを体験し、冬はさよなら遠足で4歳児・5歳児がスキーを体験し、どんな事にもチャレンジする事が出来る子供たちになって欲しいと願っています。

あゆみ保育園 園長 高松 一枝